

鳥取県6月議会 可否判断せず閉会

鳥取県議会は5日、中国電力島根原発3号機の原子

力規制委員会への新規制基準適合性審査申請の可否判断をせずに6月定例会を閉会した。平井伸治知事は米子、境港市の動向を踏まえ、県として判断する考えを改めて示した。

審査申請をめぐっては、米子市議会が7月定例会で8月1日の会期末までに議論し、境港市議会は7月末をめどに議会の意見を市に伝える方針で、県の判断時期は8月以降になるとみられる。

同日の本会議終了後、平井知事は「スケジュールは何とも言えない」とする一方、「両市の意見が出てくれば、おのずから結論が出てくる時期が見える」と話し、いたずらに判断を先延ばししない考えを示唆。稲田寿久議長は、知事の判断時期をにらみながら議会として対応を検討することを明らかにした。

6月定例会議会は、総額77億8100万円の2018年度一般会計補正予算案など16議案を原案通り可決、同意し、閉会した。補正後の一般会計総額は17年度同期比4・1%減の3464億1800万円。

(原田准吏)

米子の住民説明会延期

中国電力が5日、米子市末広町の市文化ホールで同日に開く予定だった島根原発3号機の新規制基準適合性審査に関する住民説明会を天候不良のため、延期すると発表した。代替開催の日時、場所は決まり次第、発表するとしている。